

## 60. 診療所の医師に対し、地域住民および コメディカルが求める能力・技術・資質の検討

志水元洋（旧所属 柳井市立平郡診療所、現所属 山口県立総合医療センター）  
中嶋裕（萩市見島診療所）  
原田昌範（萩市大島診療所）  
石丸泰隆（旧所属 山口県庁健康増進課、現所属 山口県柳井健康福祉センター）  
岡村宏（山口県立総合医療センター）  
石川鎮清（自治医科大学地域医療学）  
梶井英治（自治医科大学地域医療学）

### 【 目 的 】

地域住民の健康増進のため、プライマリ・ケアを担う診療所の医師には、総合的・全人的に対応する能力が必要である。また地域の医療・保健・福祉の連携を図る上でも、十分な知識・調整力・リーダーシップが医師に求められる。本研究は、山口県内の診療所を拠点とし、診療地域の住民、看護師・保健師・介護福祉士らを対象にアンケート調査を行い、地域で実際に必要とされる医師の能力・技術・資質を明らかにすることを目的とする。

### 【 方 法 】

平成 20 年 6 月から 12 月にかけて、山口県内の 10 ヶ所の診療所を拠点とし、20 歳以上の地域住民および診療地域のコメディカル（看護師、保健師、介護福祉士、事務職員）を対象にアンケート調査を実施した。地域住民に対しては、地域コミュニティ、職場、診療所でアンケートを配布し、回答者の郵送提出により回収を行った。一方コメディカルに対しては、該当者全員にアンケートを配布し、住民と同様に回答者の郵送提出によって回収を行った。

アンケートでは、年齢、性別、医療機関への通院状況（地域住民のみ）、職種（コメディカルのみ）を問い、「診療・検査に関する技術」と「優しさ・親しみやすさ」の二者択一で、医師の資質としてどちらを重視するかを質問した。次いで、地域診療所で遭遇する可能性のある医療技術を 16 項目挙げ、その中から「診療所に勤務する医師に身につけて欲しい医療技術」として 3 項目を選択させた（表 1）。さらに理想の医師像として、12 項目から 3 項目を選択させた（表 2）。回答のうち、二者択一で両方とも選択した場合、3 項目を選択する設問で 4 つ以上選択した場合は不適回答と定義し、解析より除外した。統計解析は、SPSS 17.0 を用いて行った。

表 1. 質問項目「医師に身につけて欲しい医療技術」

あなたが診療所に勤務する医師に、特に身に付けておいてほしいと思う「技術」を、以下から 3 つ選んでください。

- |                 |                     |
|-----------------|---------------------|
| 1. 胃腸の検査（胃カメラ）  | 2. 肝臓・腎臓の検査（腹部エコー）  |
| 3. 心臓の検査（心臓エコー） | 4. 目の検査（眼底検査）       |
| 5. 耳の検査（鼓膜の検査）  | 6. 皮膚の検査（水虫など顕微鏡検査） |
| 7. 皮膚の縫合        | 8. 褥瘡（床ずれ）の処置       |
| 9. 骨折への対応       | 10. 脱臼の整復           |
| 11. 関節注射        | 12. 出産の介助           |
| 13. 往診の実施       | 14. 大きな事故への対応       |
| 15. 救急救命処置      | 16. 子供の診察           |

表 2. 質問項目「理想の医師像」

あなたにとって望ましい医師像を、以下から 3 つ 選んでください。

- |                       |                 |
|-----------------------|-----------------|
| 1. 患者さんの待ち時間が短く済む     | 2. 診療科を問わず診察できる |
| 3. 総合病院・専門医へ適切な紹介ができる | 4. 診療が丁寧        |
| 5. 相談事をしやすい           | 6. 優しく頼りがいがある   |
| 7. 説明がわかりやすい          | 8. いろいろな検査ができる  |
| 9. 検査や処置が上手           | 10. 医療知識が豊富     |
| 11. 時間に関係なく、いつでも対応できる | 12. 近くに住んでいる    |

## 【 結 果 】

同意の得られた 1986 名にアンケート用紙を配布、返送された 1701 名（回収率 85.6%）から不適回答を除く 1570 名の回答について解析を行なった。調査対象者の背景を表 3 に示す。

「診療・検査に関する技術」と「優しさ・親しみやすさ」の二者択一は、全体（51.4% vs 44.9%）および地域住民（52.1% vs 44.0%）では診療・検査の技術を重視する割合が高かったが、コメディカルでは優しさ・親しみやすさを重視する割合の方が高かった（40.2% vs 58.8%）。また地域住民のうちでも、60 歳以上の高齢者、女性では優しさ・親しみやすさを、若年者、男性では技術を重視する割合が高かった。

医療技術（表 1）に関しては、全体および地域住民では胃カメラ、腹部超音波検査、心臓超音波検査を重視する傾向を示したが、コメディカルは、それらの技術以上に往診の実施や子供の診察、急変時の対応（救急処置、事故への対応）を重視する傾向にあった（図 1）。また、理想の医師像を表す 12 項目（表 2）は、地域住民は対人関係的な質を反映する「説明がわかりやすい」の項目を最も多く選択し、技術的な質を反映する「適切な紹介ができる」、「診療科を問わず診察できる」と続いていた。一方でコメディカルでは、「診療科を問わない」の項目の選択が最多であり、「説明がわかりやすい」、「いつでも対応できる」と続いていた。

【 考 察 】

技術的な質と対人関係的な質とを比較した際、地域住民全体では診療・検査の技術を重視する割合が高かったものの、若年者と男性では前者を、高齢者と女性では後者を重視する割合が高い傾向を認めた。一方でコメディカルでは、対人関係的な質を重視する割合の方が高かった。また、医療技術に関する具体的な項目として、地域住民は主に画像検査を、コメディカルは在宅医療や小児診療の能力、急変時の対応力を重要視していた。さらに、理想の医師像として具体的に提示した項目のうちでは、地域住民およびコメディカルのいずれもが「説明がわかりやすい」こと、「診療科を問わず診察できる」ことを重要視していた。

本研究より診療所に勤務する医師に対して、対人関係的な質が技術的な質と同等に重視されており、医師は診療技術に偏ることなく対人関係能力の向上に努めることが求められているといえる。さらに、その具体的な内容として、診療内容をわかりやすく説明できることが、医療を受給する立場（地域住民）にも医療を提供する立場（コメディカル）にも重要視されているといえる。

		地域住民 (n = 1473)	コメディカル (n = 97)
年齢	20 歳代 (%)	5.0	2.1
	30 歳代 (%)	12.3	20.6
	40 歳代 (%)	15.3	32.0
	50 歳代 (%)	21.2	36.1
	60 歳以上 (%)	45.7	8.2
	未回答 (%)	0.5	1.0
性別	男性 (%)	46.6	14.4
	女性 (%)	47.9	77.3
	未回答 (%)	5.6	8.2
通院状況	定期的 (%)	46.9	
	不定期 (%)	51.0	
	未回答 (%)	2.1	
職種	看護師 (%)		29.9
	保健師 (%)		2.1
	医療事務 (%)		19.6
	介護福祉士 (%)		33.0
	その他、未回答 (%)		15.4

図 1. 医師に身につけて欲しい医療技術

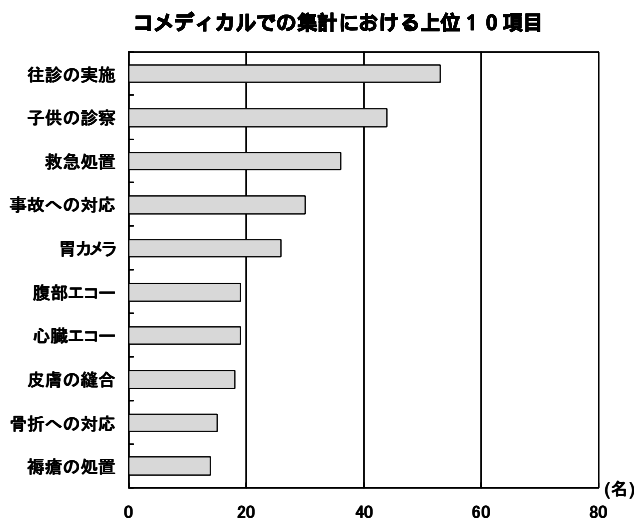
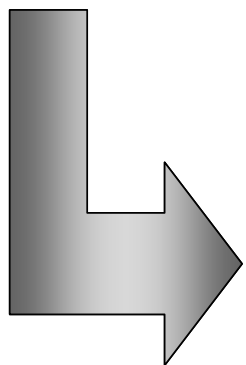
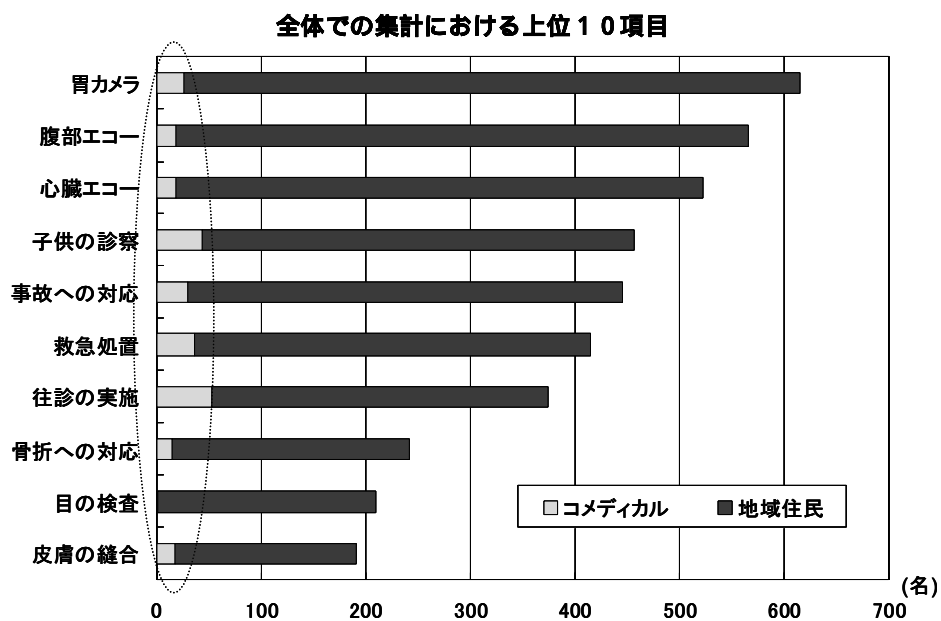
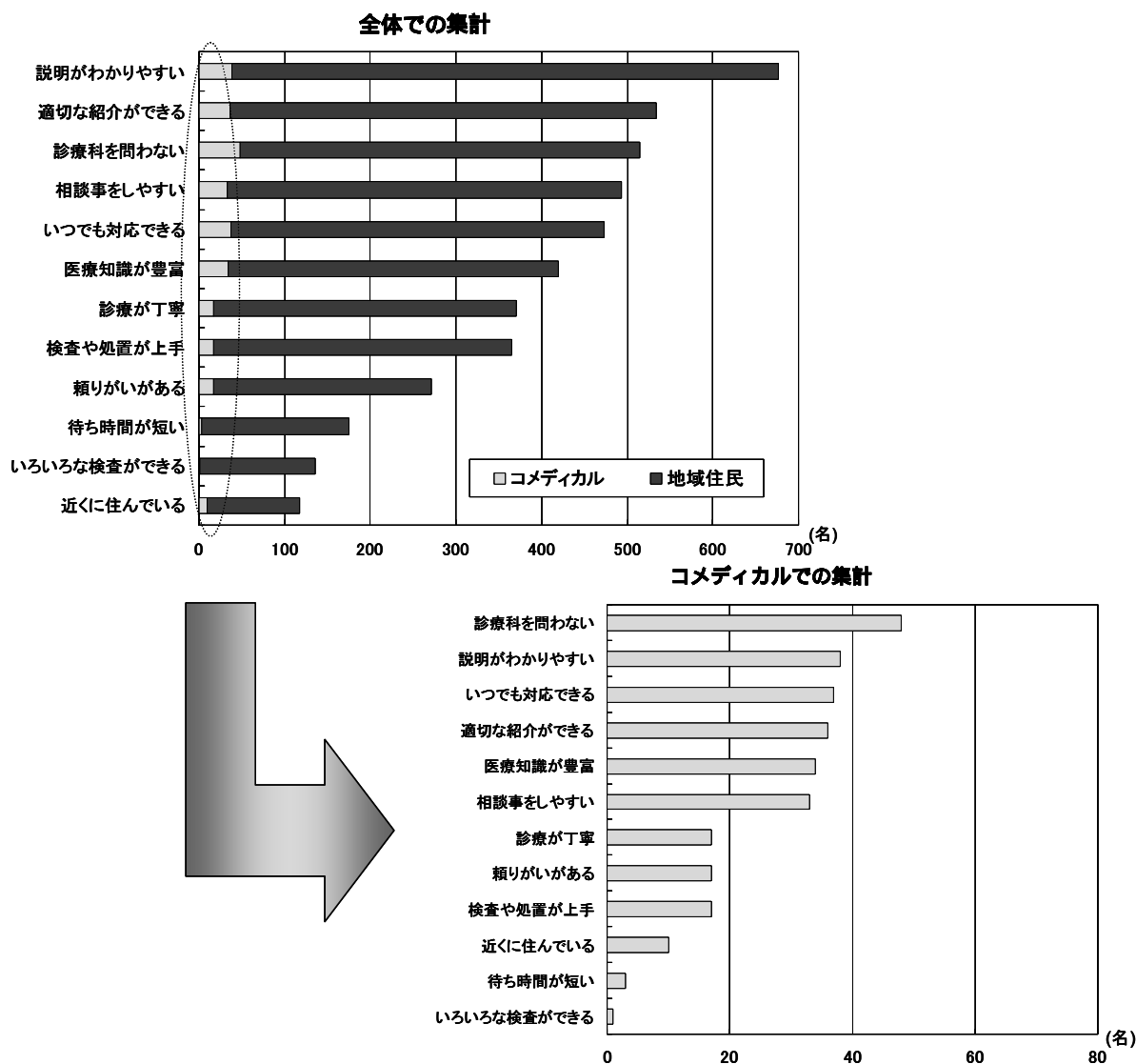


図 2. 理想の医師像



【 経費使途明細 】

調査集計・統計処理ソフト (SPSS Statistics メディカルモデル)	280,350 円
印刷製本費	
アンケート用紙 (3枚綴り×2200部) 印刷代	66,000 円
インフォームドコンセントのための説明文書 2200部 印刷代	22,000 円
コピー用紙 10,000枚	5,956 円
返信用封筒 (印刷代を含む) 2200部	30,030 円
通信運搬費 (返信用封筒郵送費 1709通×80円)	136,720 円
合 計	541,056 円